

月例会「レーダー気象」のお知らせ

標記の月例会を下記の通り開催しますのでご参加下さい。

日時：1998年1月20日(火)13：30～16：40

場所：気象庁4階予報部会議室

プログラム

1. 「気象庁の新しいレーダー観測データ処理システム」
横山辰夫（気象庁観測課）
2. 「発達初期台風の構造の啓風丸データを用いた解析」
森 一正（気象研究所），石垣修二（長崎海洋気象台）ほか
3. 「海洋地球研究船『みらい』に搭載されたドップラーレーダーについて」
米山邦夫（海洋科学技術センター）

4. 「境界層レーダー/RASSを用いた梅雨前線の観測」
足立アホロ（気象研究所）

5. 「雲霧観測システムの開発」
浜津享助（三菱電機株式会社通信機製作所）

6. 「空港気象ドップラーレーダーで観測された非降水エコーの出現特性」
楠 研一（気象研究所）

連絡先：気象研究所台風研究部

榊原 均

TEL：0298-53-8671

E-mail：hsakakib@mri-jma.go.jp

気象研究所気象衛星・観測システム研究部

牧原康隆

TEL：0298-53-8578

E-mail：ymakihar@mri-jma.go.jp

編集後記：現在運用されている気象衛星「ひまわり5号」の後継機として、運輸多目的衛星（MTSAT）が1999年夏季に打ち上げられる予定です。この衛星は今まで気象庁だけで製作していた「ひまわり」と異なり、気象庁と運輸省航空局の共同で製作しており、多目的な機能を持った大型衛星です。現在気象衛星センターでは「ひまわり5号」からMTSATに移行するためのいろいろな準備・開発を行っています。

気象庁が担当している気象ミッションについては、主に次のような特長があります。

まず、今までの「ひまわり」のように放射計が回転しながらデータを取得してゆくのではなく、3軸姿勢安定方式といって、常に地球方向に放射計を向けるような姿勢を制御しながらデータを取得してゆくので、よ

り雑音の少ない画像を撮ることが可能になります。

また、今までの4つの観測センサー（可視、赤外1、赤外2、水蒸気）に加えて3.7 μ m帯の赤外4センサーが追加され、他のチャンネルと組み合わせて、新しい情報を取り出すことが期待されています。

また、衛星を介してのデータ配信の改善として、小規模利用局（SDUS）向けに、低速デジタル伝送方式の低速情報伝送（LRIT）システムが導入される予定です。

「天気」の読者の中にも、衛星データを利用している人、衛星画像に興味を持っている人も多いと思います。近いうちに「天気」誌上にMTSATの概要説明が載せられる予定ですので、ご期待ください。（伊達哲弘）